

名 称	産山村体験活動支援センター
所 在 地	〒869-2703 熊本県阿蘇郡産山村大字山鹿 488-3
連 絡 先	TEL : 0967-25-2214                      FAX : 0967-23-9670

## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口    産山村    1,740人（平成18年4月現在）

産山村は、熊本県の東北端で九州のほぼ中央部に位置しており、久住山の裾野に広がる高原地帯で、冬の寒さは厳しいが夏は涼しく、水の豊かなところである。村内には、環境省指定「名水百選」に選ばれた「池山水源」や熊本名水百選の一つである「山吹水源」などがあり、自然に恵まれている。

本村には、「人口の減少」と「高齢化率上昇」という深刻な課題があるが、その課題解決に向け、「人が地域を創る」という観点から、本村では教育を通じた「人材育成」を重視している。そこで、地域に最適な教育効果を上げるため、本村独自の教育改革を進めている。その教育改革のテーマは、「21世紀の国際社会に貢献できる心身ともに豊かで知性に満ちた個性豊かな産山村の子どもたちの育成」であるが、その実現を目指し教職員はもとより村全体で人づくりを目指して努力しているところである。

## 事業の名称、活動概要

名称    「わいわいヒゴタイ土曜塾」

産山村では、平成14年度から始まった学校週5日制への対応、また、休日の安全な居場所の確保、学力低下対策などのため、学校、家庭、地域が連携して学力向上につながる「学習プログラム」や、地域・各種社会教育団体と連携した多様な「体験プログラム」を提供している。この取組を「わいわいヒゴタイ土曜塾」と称しているが、これは、子どもたちの「生きる力」を育成するとともに、「地域の子どもは地域で育てる」という気運の醸成や家庭や地域の教育力の活性化を図り、将来を担う感性豊かな子どもたちを育むことを目指している。

## 事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

過疎化と少子高齢化が進む中、家庭では核家族化、少子化、共働きの増加などにより、家族の触れ合いの機会は徐々に少なくなっている。また、各種メディアやテレビゲーム等の普及により、現実の体験の減少や人間関係の希薄化が進み、家庭におけるしつけの不足や社会性に乏しい子どもの増加が懸念されている。さらに、学校週5日制の導入に伴う休日における子どもたちの安全な居場所の確保や学力低下への対応など、多くの課題がある。

これらの課題に対応するため、学校と地域、家庭が連携・協働して学力向上につながるプログラムや、地域や各種社会教育団体と連携した多様な体験ができるプログラムの取組が必要であると、村では判断した。また、村内に4箇所ある公民館で、子どもを交えた事業を充実し、活動を更に活性化させるねらいもあった。

このため、教育委員会、学校、PTA、公民館、地域の団体等が連携し、一体となって、安全・安心な地域環境づくりをはじめ、多様な活動が展開できる「子どもの安全で安心な居場所」づくりの検討を行った。

地域で子どもを守り育てる取組とするため、地域の人材ボランティア等を活かした学習プログラム、また、地域の行事や人材等を活かした体験プログラムの企画を行い、「地域の子どもは地域で育てる」という意識の向上を目指すこととした。

## 事業の内容

### ① 事前準備として行った取組（企画段階）

当時小学校2校と中学校1校（現在小学校1校、中学校1校）のPTAで組織するPTA連絡協議会と教育委員会が中心となり、事業に協力できる団体、ボランティア等を募集するとともに協力をお願いを行った。その結果、読み聞かせ等のボランティア、英会話、更には、公民館、老人会、婦人会、民生委員、体育指導委員、食育推進協議会など、様々な団体から協力の承諾が得られた。

また、それらの代表者等で組織する実行委員会を設置し、その連絡調整を本事業を中心となって進める支援センターのコーディネーターが行った。

また、この呼び掛けによりPTAで組織する「読み聞かせグループ」も結成され、そのメンバーの方々は、自主的に図書館主催の研修会などに参加し、指導の方法などを学習しながら事業の開始に備えた。

### ② 活動の展開内容（活動段階）

実行委員会で事業計画を企画し、コーディネーターと学校で行事調整やボランティアや協力団体の配置計画を行った。

活動内容は、村内小・中学校児童生徒の希望者に対して、月2回、第1土曜日と第3土

曜日に提供する「体験プログラム」と「学習プログラム」で構成されている。それぞれの内容は次のとおりである。

#### ○体験プログラム

体験交流を主として、毎月第1土曜日に地区公民館などで開催し、子どもヘルパー活動や森林体験、花植えボランティア、料理教室、伝承遊びなど、様々なプログラムを実施します。指導者・支援者としては、PTAや婦人会の方々、老人会の皆さん、その他それぞれの地域の方々など、多くの方々にご協力いただき、実施している。

代表的な取組としては、

- ・子どもヘルパー活動

小学生が一人暮らしであるお年寄りの方の家を訪問して、掃除や草取りなど暮らしのお手伝いをしたり、話し相手になったりしている。

- ・花植えボランティア

各地区に分かれて、毎年2回春と秋に婦人会の皆さんの協力で実施している。地域の要所に花を植えて、環境美化に貢献している。

- ・森林体験学習

PTAの椎茸生産者が、手作りのパネルを使って森林のことや椎茸作りのことなどの説明を行い、その後実際に椎茸のコマ打ちを体験している。

- ・わくわく子ども通学合宿

小学4年生を対象に公民館に泊り込んで学校に通い、食材の買出しから、食事作り、後片付け、洗濯、掃除などの作業をしながら集団生活を体験している。

- ・三世代交流

毎年年末に老人会、婦人会、PTAの皆さんと、門松、しめ縄作り、餅つきなどを各地区公民館に分かれて行う。子どもたちは、子どもヘルパー活動の成果を生かし、つきあがった餅に短いメッセージを添えて、一人暮らしのお年寄りのお宅に届けている。

#### ○学習プログラム

基礎学力の充実を図る目的で、読み聞かせ教室や、英会話教室、パソコン教室、スポーツ教室など、様々なプログラムを実施している。

小学校、中学校を会場として毎月第3土曜日に行い、小学生を対象に「英会話教室」や「読み聞かせ教室」「パソコン教室」「スポーツ教室」などのプログラムを実施している。

指導者及び支援者としては、英会話はALTと村内在住の英語のできるボランティアの方で、読み聞かせは保護者と地域のボランティアグループで実施している。また、その他の様々な活動で、村内の教職員、行政職員、体育指導員などに協力いただき実施している。

- ・英会話教室

村では、中学校でタイ国との交換留学による国際交流を行っている。そのためにも、英会話の充実が重要となっている。英会話の学習についてはこの「土曜塾」でも取り組み、毎週水曜日の放課後には、小学校6年生を対象に放課後英会話教室でも行っている。内容としては、英語の遊びを中心とした日常英会話の学習である。

- ・読み聞かせ教室

小学校低学年を対象に読み聞かせグループの皆さんの協力で実施している。このグループの発案で、親子で家庭文庫を作り家庭読書を推進しようという目的で本立て作りも行う。また、毎回読み聞かせのほかに、紙コップや新聞紙などを使ったものづくりなども行う。

- ・スポーツ教室

サッカー、バドミントン、ソフトボール、ティールール、バスケットボールなど様々なスポーツを行っている。

#### ○土曜塾の平成18年度実績

- ・開催回数は、体験プログラムが13回、学習プログラムが11回実施となっている。
- ・参加率は、1回以上参加した子どもたちは97%で、半分以上参加した子どもたちは64%となっている。

### ③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

村教育委員会で実施に必要な教材や読み聞かせ用の本、体験活動に必要な材料、協力者への謝金などを予算化した。

ボランティアの皆さん、地域の方々との連携を確実にするためには、年間通しての活動計画、学校行事、地域の行事との調整、開催ごとの活動内容の具体的な計画などを正確に作成しておくことが重要である。

### ④ 事業の成果と今後の課題

成果として、子どもたちの参加率が高いことからいえるように、ニーズに合ったプログラムができていると思われる。

保護者をはじめ、地域住民に好評で、積極的に協力をいただいております。事業を立ち上げると同時に、読み聞かせのボランティアグループが結成され、自主的に研修会などに参加しているなど、総体的に「地域の子どもは地域で育てる」という意識が芽ばえ、理想の姿に近づきつつあると思われる。また、本事業は学校・家庭・地域・行政が一体となって、安全・安心な地域環境づくりをはじめ、多様な活動が展開できる「子どもの安全で安心な居場所」となっており、「地域で子どもの命を守り育てる取組」となっていると思われる。

今後の課題としては、指導者の確保や負担増の問題がある。平成19年度より文科省の補助事業で「放課後子ども教室」に取り組んでおり、「学習プログラム」の部分にソロバン、創作活動などを取り入れ毎週火曜日と木曜日の放課後に実施するようになった。そのため、「わいわいヒゴタイ土曜塾」の「学習プログラム」の部分は、放課後子ども教室へ移行し、水曜日の英会話については、代わりに英語を使った「ヒップホップダンス教室」を行うようにした。このようなことから、放課後子ども教室に替わり実施回数も今までより7倍から8倍となることから、ボランティアの皆さんには大きな負担となっている。しかし、そのような中どうにか軌道に乗りつつある状況である。

次世代を担う子どもたちに「じっくり、しっかり、伸び伸び」と学んでもらいたい。こ

れからの時代を生き抜く本物の力をつけてもらいたいということで、その一端をこの「わいわいヒゴタイ土曜塾」で取り組んでいる。また、子どもたちの安心・安全な居場所がなくなりつつある中、子どもたちが安心して活動できる場をこれからも提供して行きたいと思っている。今後も更に充実した「放課後子ども教室」を含めた「わいわいヒゴタイ土曜塾」の取組を続けていきたいと考えている。



読み聞かせ教室



子どもヘルパー



花植えボランティア



わくわく子ども通学合宿



三世代交流



英会話教室



読み聞かせ教室



スポーツ教室



パネルシアター

執筆者職・氏名：産山村教育委員会 社会教育係長 職名 中村 祐介

コーディネーターからの一言コメント

「地域の子どもは地域で育てよう」と、学校・家庭・地域が一体となって「体験」と「学習」両プログラムのもと、多様な活動に取り組んでいる。地域の人に囲まれた子どもの社会力の育ちが期待される。

(中根 惇子)